

鉄道一般  
信号通信情報

## 輸送実態に基づく貨物モーダルシフトの可能性に関する分析

厲国権 武藤雅威 柴田宗典 奥田大樹 鈴木崇正

鉄道貨物輸送を活用することは、近年の課題となっている地球温暖化などの社会問題へ対応する有効な対策の1つである。しかし貨物輸送市場の現状において、輸送機関間の競争が激化しており、陸上貨物の鉄道へのモーダルシフトを実現するには、多くの課題が存在している。従って、陸上貨物のモーダルシフトに繋がる施策を提案する場合には、鉄道を利用可能な陸上貨物の実状と輸送実態などを考察し、鉄道輸送の可能性と課題を把握することがまず必要不可欠である。本論では、国内の物流実態分析を通じて鉄道にシフト可能な潜在的な陸上貨物の存在を明らかにするとともに、主要線区を通過する貨物の実態や関係地域に存在する潜在鉄道貨物の状況を分析した。また鉄道とトラックの輸送サービスについて、利用運送事業者や荷主の評価

通過線区	積載率に対応した最大発生率		貨物列車Aの各通過線区における積載率分布	潜在貨物の輸送余地
	積載率	最大発生率		
線区3	約70~80%	約23%	<p>線区3における列車の積載状態</p>	小さい
線区2	約70%	約26%	<p>線区2における列車の積載状態</p>	一定程度 があり
線区1	約60%	約27%	<p>線区1における列車の積載状態</p>	あり
KS線区	約25%	約42%	<p>KS線区における列車の積載状態</p> <p>横軸:積載率 縦軸:発生率</p>	大きい

図 任意の貨物列車Aの通過線区別の積載率分布

や問題意識を比較・分析し、現状の貨物輸送実態に基づいて、貨物輸送モーダルシフトの可能性と課題を明らかにした。